

# 平成28年度粗飼料の傾向

分析グループ 川越 大樹

平成28年は、牧草の収穫期に雨が非常に多い年となりました。この悪天候の影響が成分値にも見られています。弊社分析グループでの分析結果を基に、各粗飼料での傾向を示しますので、参考として頂ければ幸いです。

## ●1 番牧草サイレージの傾向

平成28年産1番牧草サイレージ(GS)は、粗蛋白質質(CP)や総繊維(OCW)は例年並で、TDNは例年並からやや低い傾向になっています(表1)。

一方、平成28年産1番GSの1番の特徴は、カリウム(K)の値が例年に比べ高い傾向にあることです。牧草中のK濃度は、ふん尿の過剰施用により高くなることが知られております。しかし、施肥や、ふん尿の施用量が大きく変わったとは考えにくいことから、天候による影響が大きいと考えています。

表1. イネ科主体1番GSの平均値

	pH	水分	CP	TDN	OCW	NFC	K	タタニー比
H28	4.00	73.8	11.0	57.8	69.0	11.9	2.09	1.53
H27	4.01	75.8	10.9	58.6	69.8	12.9	1.73	1.39
H26	4.05	74.0	10.9	57.3	70.8	12.4	1.86	1.46
H25	4.15	75.4	11.5	58.4	69.1	13.6	1.82	1.43
H24	4.12	73.8	11.0	60.6	66.6	15.7	1.68	1.36

\*pH、水分以外は乾物中%

## ●平成28年産1番GSの刈取り日とKの関係

一般的に牧草中のK濃度は、生育ステージが進むにつれ低下していくため、H27年産1番GSのように刈取り日が進むにつれ、Kも減少していく傾向が見られます

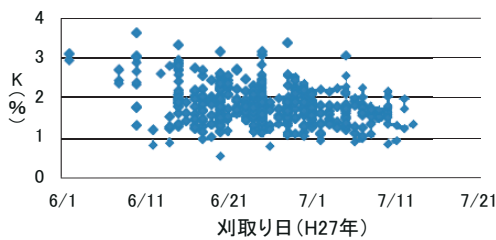


図1. 平成27年産1番GSのK分布(刈取り日別)

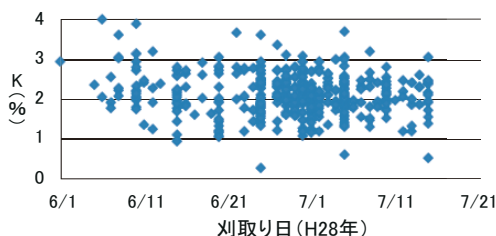


図2. 平成28年産1番GSのK分布(刈取り日別)

す(図1)。しかし、H28年産1番GSでは、刈取り日が進んでもKは減少していく傾向は見られていません(図2)。これは、6月の長雨による日照不足等の影響から生育が停滞し、刈取り日が進んでも生育ステージが進まなかった事が考えられます。このため、刈取りの遅い牧草でもKが減少せず、平成28年産1番GSのKが高い傾向となった要因の一つと考えられます。

## ●2 番牧草サイレージの傾向

平成28年産2番GSの成分値は、CPやOCWは例年並ですが、TDNは低い傾向です。また、1番GSと同様にKが高い傾向です(表2)。これは、1番草の遅れや、8、9月の台風の影響で雨の日が多く、2番草の生育ステージがあまり進まなかったことが原因の一つと考えられます。

表2. イネ科主体2番GSの平均値

	pH	水分	CP	TDN	OCW	NFC	K	タタニー比
H28	4.08	72.7	14.6	56.9	62.7	15.1	2.17	1.30
H27	3.96	72.7	14.2	59.2	62.2	16.6	1.80	1.17
H26	3.97	70.5	13.7	58.8	62.4	16.9	1.77	1.15
H25	4.11	72.2	14.8	58.2	62.7	16.3	1.84	1.20
H24	4.47	74.1	14.9	57.9	64.1	14.2	1.86	1.15

\*pH、水分以外は乾物中%

## ●トウモロコシサイレージ(CS)の傾向

平成28年産CSの成分値は、例年に比べTDNやデンプンは低く、Kは高い傾向です(表3)。8、9月の台風により、倒伏被害や刈り遅れが多く地域で発生しており、これらの影響が考えられます。

表3. CSの平均値

	pH	水分	CP	TDN	OCW	デンプン	K	タタニー比
H28	3.86	71.4	8.62	68.8	44.1	24.5	1.48	1.62
H27	3.80	71.2	8.25	71.6	43.0	27.6	1.00	1.20
H26	3.80	70.9	8.14	71.4	43.7	28.0	1.03	1.21
H25	3.79	71.2	8.26	70.7	46.3	25.7	1.06	1.24
H24	3.97	70.5	8.43	71.2	44.8	27.4	1.06	1.24

\*pH、水分以外は乾物中%

## ●まとめ

平成28年産粗飼料は、Kの値が例年よりも高い傾向が見られています。そのため、Kの値、そして他のミネラルとのバランスに注意が必要です。

今回報告した傾向が、すべての粗飼料に当てはまるわけではありませんが、今後給与される粗飼料の目安として頂ければ幸いです。